

# 米国3倍4資産リスク分散ファンド (隔月決算型) / (年2回決算型) (愛称: アメリカまるごとレバレッジ (隔月決算型) / (年2回決算型))

&lt;3397&gt; &lt;3398&gt;

(隔月決算型) 追加型投信 / 海外 / 資産複合

日経新聞掲載名: 米3倍4資産

(年2回決算型) 追加型投信 / 海外 / 資産複合

日経新聞掲載名: 米3倍4資産

(隔月決算型)

第25期 2023年11月13日決算

第26期 2024年1月11日決算

第27期 2024年3月11日決算

(年2回決算型)

第9期 2024年3月11日決算

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資を行ない、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

(隔月決算型)

第27期末	基準価額	10,882円
	純資産総額	33百万円
第25期～第27期	騰落率	18.7%
	分配金合計	300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(年2回決算型)

第9期末	基準価額	13,301円
	純資産総額	72百万円
第9期	騰落率	18.3%
	分配金	10円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00(営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

◇SKU0339720240311◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

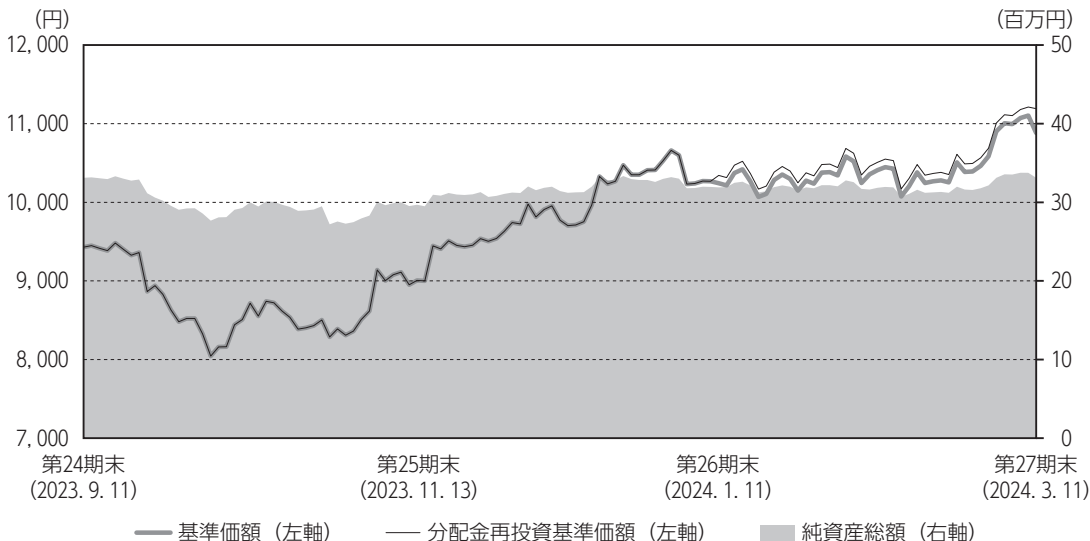
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択

隔月決算型



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第25期首：9,430円

第27期末：10,882円（既払分配金300円）

騰落率：18.7%（分配金再投資ベース）

#### 基準価額の主な変動要因

主に米国株式市況や米国リート市況、金価格の上昇を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第25期～第27期 (2023. 9. 12～2024. 3. 11)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	54円	0.559%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>当作成期中の平均基準価額は9,700円です。</b>
(投 信 会 社)	(21)	(0.218)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(32)	(0.327)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	4	0.046	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(4)	(0.044)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.002)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	2	0.021	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.014)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	61	0.626	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

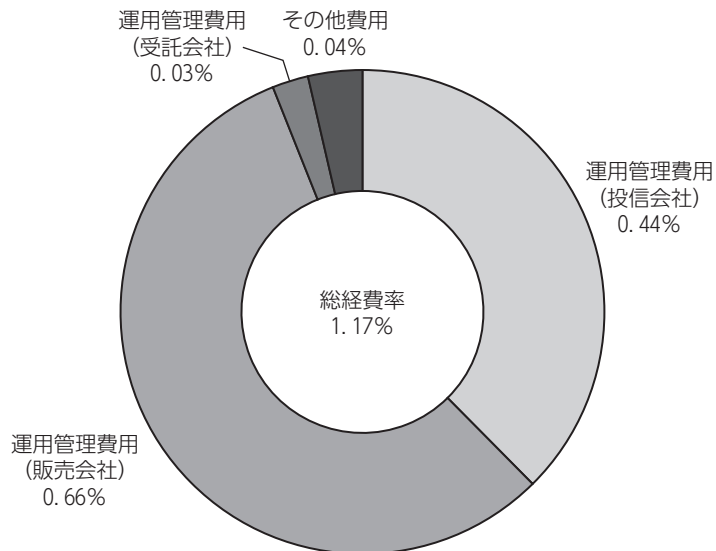
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.17%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



	2019年10月15日 設定	2020年3月11日 決算日	2021年3月11日 決算日	2022年3月11日 決算日	2023年3月13日 決算日	2024年3月11日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,602	10,347	10,633	8,472	10,882
期間分配金合計（税込み） (円)	—	200	700	1,100	0	300
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	8.0	4.1	13.3	△20.3	32.1
純資産総額 (百万円)	40	64	74	47	35	33

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 投資環境について

(2023. 9. 12 ~ 2024. 3. 11)

### ■米国株式市況

米国株式市況は大幅に上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首より、F R B（米国連邦準備制度理事会）の政策金利見通しの引き上げ、政府機関の閉鎖懸念などによる長期金利の大幅な上昇、景気の先行き不透明感や企業業績の伸びの鈍化、パレスチナ情勢の悪化などが嫌気され、2023年10月末まで下落しました。11月以降は、欧米のインフレ率が予想以上に鈍化し金利が低下したことや、F R B 議長が将来の利下げについての議論を始めたことと述べたことを受けて利下げ観測が高まったこと、A I（人工知能）関連の半導体関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、急上昇して当作成期末を迎えました。

### ■米国債券市況

米国金利は低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市況は、当作成期首より、F R B（米国連邦準備制度理事会）が政策金利の据え置きを発表したものの、金融引き締め環境の長期化や底堅い米国経済見通しを示唆したことから、金利は上昇（債券価格は下落）しました。2023年10月に入っても、引き続き良好な経済指標が確認されたことや国債の需給悪化などが嫌気され、長期主導で金利上昇が継続しました。しかし11月は、F R B が政策金利を据え置いたことや、雇用およびインフレ関連指標が市場予想を下回る結果となったことなどから、金利は大きく低下しました。12月も、F R B が政策金利やインフレの見通しを引き下げたことで、金利は低下基調となりました。2024年に入ってから、市場予想を上回る経済指標などを受けて過度な利下げ織り込みが後退したことで、金利は長期主導で上昇に転じ、2月下旬にかけて金利は上昇しました。当作成期末にかけては、軟調な経済指標や F R B 理事の発言などを受けて、金利は低下しました。

### ■米国リート市況

米国リート市況は上昇しました。

米国リート市況は、当作成期首より、米国長期金利の上昇が嫌気され軟調に始まりましたが、2023年11月以降は、米国の利上げ打ち止め観測の高まりを受けて長期金利が低下したことが好感され、急反発しました。2024年に入ると、それまでの上昇が急だった反動や利下げ期待が後退したことから上値が抑えられましたが、その後発表された米国リートの業績がおおむね良好だったことが支援材料になり、再び上昇しました。セクター別では、堅調なファンダメンタルズに対し割安感のあったショッピングモールや、生成A I（人工知能）関連の需要の高まりに対して物件供給が限定的なデータセンターなどが上昇しました。

## ■金市況

金価格は上昇しました。

2023年9月19、20日のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で2024年の景気と政策金利の見通しが引き上げられたことなどを嫌気し、金価格は当作成期首の1,900米ドル台半ばから10月初旬には1,800米ドル台前半まで下落しました。しかし、10月7日のハマスによるイスラエルへの大規模なテロ攻撃をきっかけに中東の地政学リスクが高まると急反発しました。さらに11月中旬以降は、米国の利上げ終了観測や利下げ前倒し観測の高まりを背景に上昇基調で推移し、12月初旬には史上最高値を更新しました。その後は、米国の早期利下げ観測が後退する中でも、2024年2月までおおむね2,000米ドルから2,100米ドルのレンジで底堅く推移しました。さらに3月に入ると、好調な先進国株やビットコイン価格の反落に備えて一部の投資家が金に資金を振り向けたとの見方や、2024年年初から強まっていた米国の利下げ時期の後ずれ観測が一服したことで出遅れていた金を買われやすくなったとの見方などから、再び史上最高値を更新しました。

## ■為替相場

米ドル為替相場は、対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、米国金利が上昇した一方で日銀は緩和的な金融政策の維持を発表したことから、上昇しました。しかし2023年11月以降は、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を背景に、米ドルは対円で下落（円高）しました。2024年に入ってから、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に円安米ドル高基調となりました。しかし当作成期末にかけては、米国の金利低下や日銀によるマイナス金利政策解除への警戒感などから、円高米ドル安となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

## ポートフォリオについて

(2023. 9. 12 ~ 2024. 3. 11)

### ■当ファンド

「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が高位となるように組み入れました。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。なお、第25期は、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第25期	第26期	第27期
	2023年9月12日 ～2023年11月13日	2023年11月14日 ～2024年1月11日	2024年1月12日 ～2024年3月11日
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)	—	<b>100</b>	<b>200</b>
対基準価額比率 (%)	—	0.97	1.80
当期の収益 (円)	—	80	200
当期の収益以外 (円)	—	19	—
翌期繰越分配対象額 (円)	1,398	1,378	1,379

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第25期	第26期	第27期
(a) 経費控除後の配当等収益	51.31円	✓ 80.35円	✓ 40.71円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	✓ 159.57
(c) 収益調整金	846.37	851.35	860.13
(d) 分配準備積立金	500.59	✓ 547.11	518.86
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	1,398.28	1,478.82	1,579.29
(f) 分配金	0.00	100.00	200.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	1,398.28	1,378.82	1,379.29

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

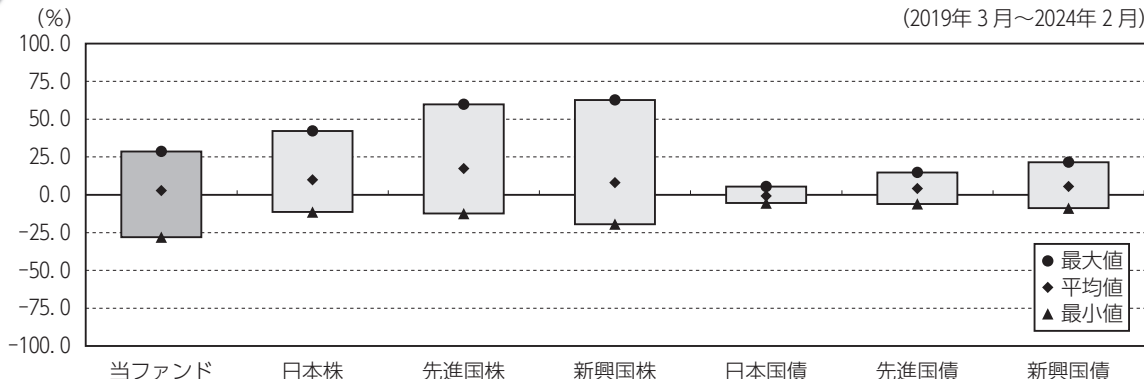


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2019年10月15日～2029年9月11日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの受益証券
	米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	次の有価証券および先物取引 イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引 ロ. 米国国債を対象とした先物取引 ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券（以下「リート」といいます。）の指数を対象指数としたETF（上場投資信託証券）（以下「リートETF」といいます。） ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引 ホ. 金を対象とした先物取引 ヘ. 米国国債
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、米国の株価指数先物、国債先物およびリートETFならびに金先物に分散投資を行ない、信託財産の成長をめざします。</p> <p>※運用の効率化を図るため、米国リートを対象としたリート指数先物取引を利用することがあります。</p> <p>※残存期間の短い米国国債にも投資します。</p> <p>②原則として、月次で下記の通りリバランスを行ないます。</p> <p>イ. 各投資対象の比率は、ポートフォリオ全体に占める各投資対象のリスク割合が均等となることを目標に決定します。</p> <p>ロ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引、米国国債を対象とした先物取引、米国リートを対象としたリート指数先物取引および金を対象とした先物取引の買建玉の時価総額と、米国リートETFの組入総額の合計額が、信託財産の純資産総額の3倍相当となるよう投資を行ないます。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、分配対象額の範囲内で、下記イ. およびロ. に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p> <p>イ. 計算期末の前営業日の基準価額（1万口当たり。既払分配金を加算しません。以下同じ。）が11,000円未満の場合、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。</p> <p>ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が11,000円以上の場合、当該基準価額に応じ、下記の金額（1万口当たり）を分配することをめざします。</p> <p>(a) 11,000円以上12,000円未満の場合・・・200円</p> <p>(b) 12,000円以上の場合・・・300円</p> <p>なお、計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。</p>	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	28.6	42.1	59.8	62.7	5.4	14.8	21.5
平均値	2.8	9.9	17.3	8.0	△ 0.7	4.1	5.6
最小値	△ 28.0	△ 11.4	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



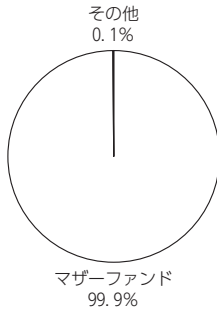
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

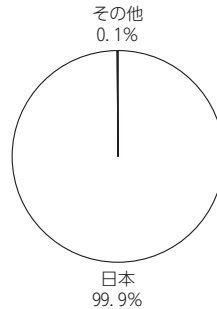
### 組入ファンド等

	比率
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	99.9%
その他	0.1%

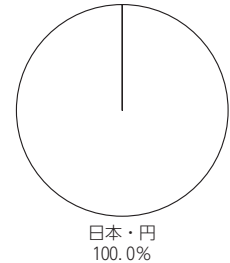
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2024年3月11日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項目	第25期末	第26期末	第27期末
	2023年11月13日	2024年1月11日	2024年3月11日
純資産総額	29,692,958円	31,885,914円	33,124,210円
受益権総口数	32,973,619口	31,135,253口	30,440,503口
1万口当り基準価額	9,005円	10,241円	10,882円

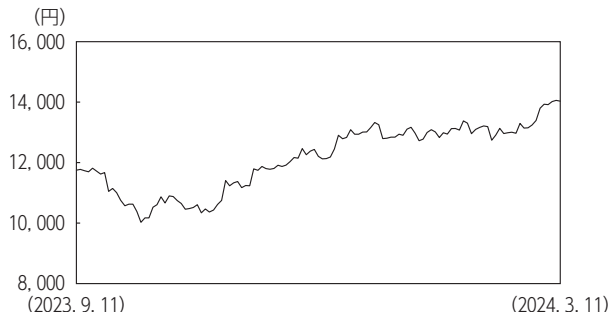
\* 当作成期間（第25期～第27期）中における追加設定元本額は1,504,924円、同解約元本額は6,175,390円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆米国3倍4資産リスク分散マザーファンド（作成対象期間 2023年9月12日～2024年3月11日）

#### ■基準価額の推移



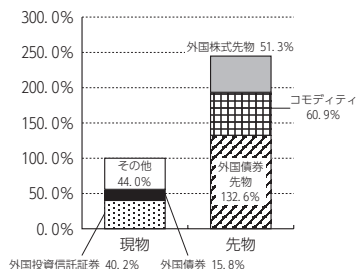
#### ■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料 (先物・オプション) (投資信託受益証券)	6円 (5) (0)
有価証券取引税 (投資信託受益証券)	0 (0)
その他費用 (保管費用) (その他)	2 (2) (0)
合計	8

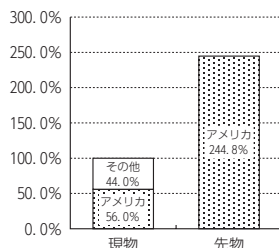
#### ■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
E-MICRO GOLD FUTURES APR 24 買	アメリカ・ドル	60.9%
US 10YR NOTE JUN 24 買	アメリカ・ドル	50.2
US LONG BOND JUN 24 買	アメリカ・ドル	43.7
VANGUARD REAL ES	アメリカ・ドル	40.2
US 5YR NOTE JUN 24 買	アメリカ・ドル	38.7
MICRO E-MINI NASDAQ 100 MAR 24 買	アメリカ・ドル	25.9
MICRO EMINI S&P 500 MAR 24 買	アメリカ・ドル	25.4
U. S. TREASURY BILL 2024/7/11	アメリカ・ドル	6.6
U. S. TREASURY BILL 2024/9/5	アメリカ・ドル	5.3
U. S. TREASURY BILL 2024/10/3	アメリカ・ドル	3.9
組入銘柄数	10銘柄（先物含む）	

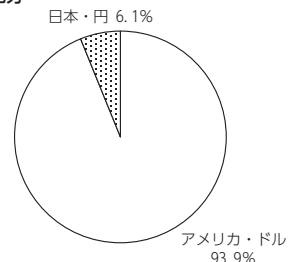
#### ■資産別配分



#### ■国別配分



#### ■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

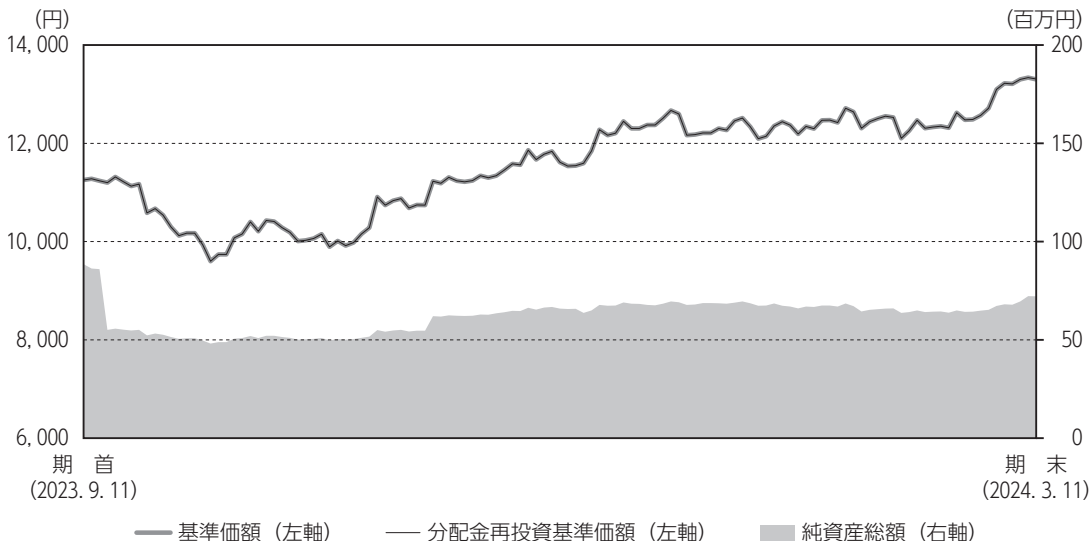
\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 年2回決算型



## 運用経過

## 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

## ■ 基準価額・騰落率

期首：11,254円

期末：13,301円（分配金10円）

騰落率：18.3%（分配金込み）

## ■ 基準価額の主な変動要因

主に米国株式市況や米国リート市況、金価格の上昇を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2023. 9. 12~2024. 3. 11)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	65円	0.561%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,568円です。
(投 信 会 社)	(25)	(0.219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(38)	(0.328)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	5	0.047	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(5)	(0.044)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.003)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	2	0.021	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.014)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	73	0.628	

(注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

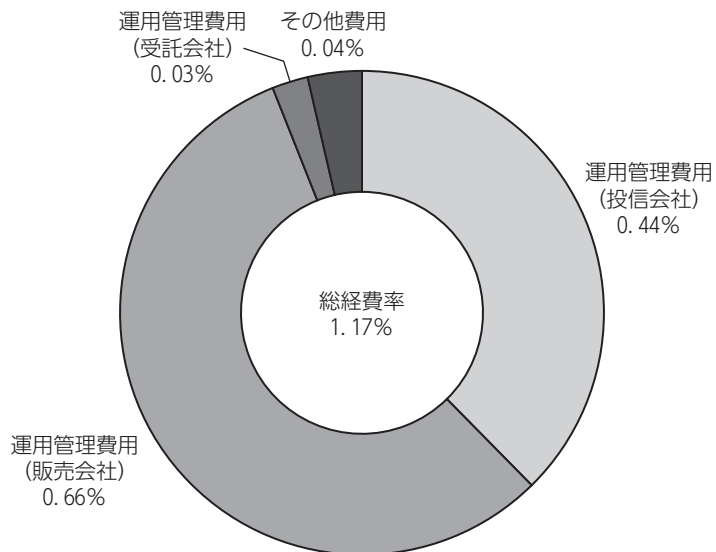
(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



## 参考情報

## ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.17%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



	2019年10月15日 設定	2020年3月11日 決算日	2021年3月11日 決算日	2022年3月11日 決算日	2023年3月13日 決算日	2024年3月11日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,805	11,261	12,739	10,121	13,301
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	10	10	10	0	20
分配金再投資基準価額の 騰落率 (%)	—	8.2	4.3	13.2	△20.6	31.6
純資産総額 (百万円)	40	246	144	121	77	72

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 投資環境について

(2023. 9. 12 ~ 2024. 3. 11)

### ■米国株式市況

米国株式市況は大幅に上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首より、F R B（米国連邦準備制度理事会）の政策金利見通しの引き上げ、政府機関の閉鎖懸念などによる長期金利の大幅な上昇、景気の先行き不透明感や企業業績の伸びの鈍化、パレスチナ情勢の悪化などが嫌気され、2023年10月末まで下落しました。11月以降は、欧米のインフレ率が予想以上に鈍化し金利が低下したことや、F R B 議長が将来の利下げについての議論を始めたことと述べたことを受けて利下げ観測が高まったこと、A I（人工知能）関連の半導体関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、急上昇して当作成期末を迎えました。

### ■米国債券市況

米国金利は低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市況は、当作成期首より、F R B（米国連邦準備制度理事会）が政策金利の据え置きを発表したものの、金融引き締め環境の長期化や底堅い米国経済見通しを示唆したことから、金利は上昇（債券価格は下落）しました。2023年10月に入っても、引き続き良好な経済指標が確認されたことや国債の需給悪化などが嫌気され、長期主導で金利上昇が継続しました。しかし11月は、F R B が政策金利を据え置いたことや、雇用およびインフレ関連指標が市場予想を下回る結果となったことなどから、金利は大きく低下しました。12月も、F R B が政策金利やインフレの見通しを引き下げたことで、金利は低下基調となりました。2024年に入ってから、市場予想を上回る経済指標などをを受けて過度な利下げ織り込みが後退したことで、金利は長期主導で上昇に転じ、2月下旬にかけて金利は上昇しました。当作成期末にかけては、軟調な経済指標やF R B 理事の発言などを受けて、金利は低下しました。

### ■米国リート市況

米国リート市況は上昇しました。

米国リート市況は、当作成期首より、米国長期金利の上昇が嫌気され軟調に始まりましたが、2023年11月以降は、米国の利上げ打ち止め観測の高まりを受けて長期金利が低下したことが好感され、急反発しました。2024年に入ると、それまでの上昇が急だった反動や利下げ期待が後退したことから上値が抑えられましたが、その後発表された米国リートの業績がおおむね良好だったことが支援材料になり、再び上昇しました。セクター別では、堅調なファンダメンタルズに対し割安感のあったショッピングモールや、生成A I（人工知能）関連の需要の高まりに対して物件供給が限定的なデータセンターなどが上昇しました。

## ■金市況

金価格は上昇しました。

2023年9月19、20日のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で2024年の景気と政策金利の見通しが引き上げられたことなどを嫌気し、金価格は当作成期首の1,900米ドル台半ばから10月初旬には1,800米ドル台前半まで下落しました。しかし、10月7日のハマスによるイスラエルへの大規模なテロ攻撃をきっかけに中東の地政学リスクが高まると急反発しました。さらに11月中旬以降は、米国の利上げ終了観測や利下げ前倒し観測の高まりを背景に上昇基調で推移し、12月初旬には史上最高値を更新しました。その後は、米国の早期利下げ観測が後退する中でも、2024年2月までおおむね2,000米ドルから2,100米ドルのレンジで底堅く推移しました。さらに3月に入ると、好調な先進国株やビットコイン価格の反落に備えて一部の投資家が金に資金を振り向けたとの見方や、2024年初年から強まっていた米国の利下げ時期の後ずれ観測が一服したことで出遅れていた金を買われやすくなったとの見方などから、再び史上最高値を更新しました。

## ■為替相場

米ドル為替相場は、対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、米国金利が上昇した一方で日銀は緩和的な金融政策の維持を発表したことから、上昇しました。しかし2023年11月以降は、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を背景に、米ドルは対円で下落（円高）しました。2024年に入ってから、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に円安米ドル高基調となりました。しかし当作成期末にかけては、米国の金利低下や日銀によるマイナス金利政策解除への警戒感などから、円高米ドル安となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

## ポートフォリオについて

(2023. 9. 12 ~ 2024. 3. 11)

### ■当ファンド

「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が高位となるように組み入れました。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2023年9月12日 ～2024年3月11日	
<b>当期分配金（税込み）</b>	<b>（円）</b>	<b>10</b>
対基準価額比率	（％）	0.08
当期の収益	（円）	10
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	3,301

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計上上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期	
(a) 経費控除後の配当等収益	✓	217.85円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益		651.93
(c) 収益調整金		1,535.02
(d) 分配準備積立金		906.41
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)		3,311.23
(f) 分配金		10.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)		3,301.23

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態でも高位となるように組み入れます。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

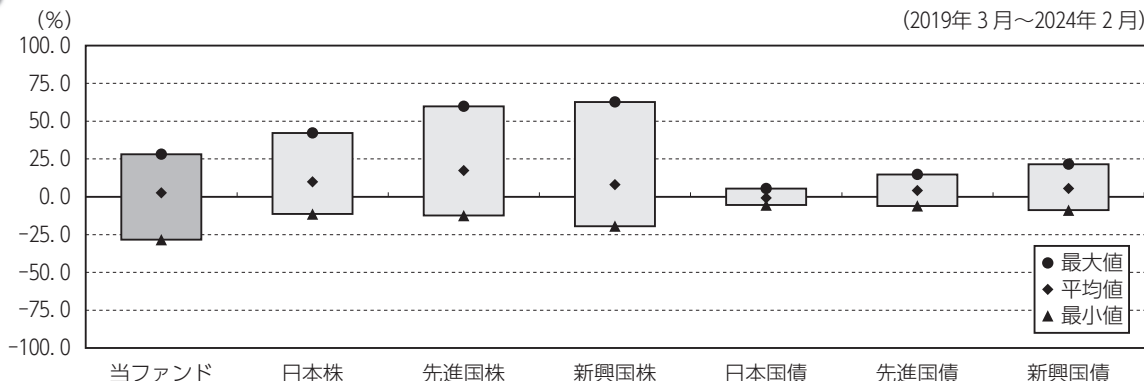


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2019年10月15日～2029年9月11日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行いません。	
主要投資対象	ベビーファンド	米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの受益証券
	米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	<p>次の有価証券および先物取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引</li> <li>ロ. 米国国債を対象とした先物取引</li> <li>ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券（以下「リート」といいます。）の指数を対象指数としたETF（上場投資信託証券）（以下「リートETF」といいます。）</li> <li>ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引</li> <li>ホ. 金を対象とした先物取引</li> <li>ヘ. 米国国債</li> </ul>
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、米国の株価指数先物、国債先物およびリートETFならびに金先物に分散投資を行ない、信託財産の成長をめざします。</p> <p>※運用の効率化を図るため、米国リートを対象としたリート指数先物取引を利用することがあります。</p> <p>※残存期間の短い米国国債にも投資します。</p> <p>②原則として、月次で下記の通りリバランスを行いません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ. 各投資対象の比率は、ポートフォリオ全体に占める各投資対象のリスク割合が均等となることを目標に決定します。</li> <li>ロ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引、米国国債を対象とした先物取引、米国リートを対象としたリート指数先物取引および金を対象とした先物取引の買建玉の時価総額と、米国リートETFの組入総額の合計額が、信託財産の純資産総額の3倍相当となるよう投資を行いません。</li> </ul> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行いません。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p>	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	28.1	42.1	59.8	62.7	5.4	14.8	21.5
平均値	2.7	9.9	17.3	8.0	△ 0.7	4.1	5.6
最小値	△ 28.4	△ 11.4	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去 5 年間における年間騰落率（各月末における直近 1 年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去 5 年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から 60 カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込み T O P I X

先進国株……………M S C I コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………M S C I エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………N O M U R A - B P I 国債

先進国債……………F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込み T O P I X の指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●M S C I コクサイ・インデックスおよび M S C I エマージング・マーケット・インデックスは、M S C I Inc.（「M S C I」）が開発した指数です。本ファンドは、M S C I によって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、M S C I は本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html] ●N O M U R A - B P I 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。N O M U R A - B P I 国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●F T S E 世界国債インデックスは、F T S E Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数は F T S E Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は F T S E Fixed Income LLC が有しています。●J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J. P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J. P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J. P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。





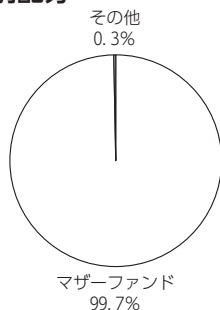
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

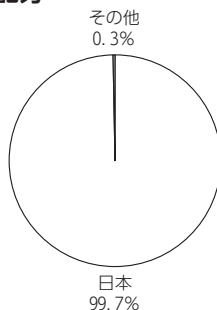
### 組入ファンド等

	比率
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	99.7%
その他	0.3

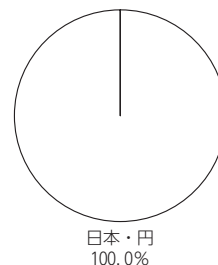
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2024年3月11日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載していません。

## 純資産等

項目	当期末
	2024年3月11日
純資産総額	72,123,156円
受益権総口数	54,222,902口
1万口当り基準価額	13,301円

\*当期中における追加設定元本額は17,876,030円、同解約元本額は42,295,100円です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

- ◆米国3倍4資産リスク分散マザーファンド (作成対象期間 2023年9月12日～2024年3月11日)  
13ページをご参照ください。